

平成 30 年 11 月 提出

大船渡市議会議長 様

市議会議員 森 操

研修（視察）報告書

研修：項目/主催者/場所

(1) 研修項目：「決算カード」からあなたのまちの本当の財政状況を知る

主催者：一般社団法人 地方議員研究会

講師：森 裕之（立命館大学）

場所：東京駅八重洲口 戸田建設ビル内 貸会議室

日時：平成 30 年 9 月 28 日（金）

(2) 研修項目：「サーモン養殖の現状と課題について」

会合名：平成 30 年度第 2 回 国立研究開発法人水産研究・教育機構との懇談

主催者：一般社団法人 全国水産技術者協会

場所：港区赤坂の三会堂ビル 8F 全国水産技術者協会

日時：平成 30 年 9 月 28 日（金）

研修報告：

(1) 「決算カード」からあなたのまちの本当の財政状況を知る

この研修は前日 27 日からの 2 日間であったが、都合により後半の 1 日のみの受講とした。内容は、**大船渡市**の「決算カード」を持参して、財政状況の見方を学んだ。行政は実質収支を形式上は黒字にしなければ予算を組めないのが常に黒字にする。実質単年度収支は大船渡市の場合は復興建設に伴い、平成 27 年度から平成 29 年度で連続して赤字財政であるが、財政調整基金等を堅持している。

・財政状況で厳しい実例として、政令指定都市に移行した**新潟市**は、各 8 区政それぞれを重んずる行政により、地方債残高が増え続けて、積立金残高が枯渇状態になり、早く手を打たなければ大変な事になるとの分析結果である。

・財政状況が正常な財政運営の実例として、政令指定都市に移行した**浜松市**は、公共施設の削減を「施設評価」と「再配置計画」を策定・公表して、施設数を 20%削減をした。基本的に地域の言う事は聞かないで、資産経営推進方針を策定して、すべての公共施設についてデータベース化してそれを優先した。

・**阪南市**は、財政が厳しく何らかの対策を講じなければ、積立残高が枯渇して実質収支が赤字になる見通しの中で、2016 年に 7 カ所の公立保育所・幼稚園を一気に統廃合して 1 つのこども園にしようとしたが、住民の反対で現職市長が選挙に負けて頓挫して苦しい状況。

・**交野市**は経済成長期の土地開発公社の経営の失敗による財政負担に苦しめられてきた。実質公債費比率 13.1%（早期健全化基準 25%、財政再生基準 35%）で現在の借金が高い。将来負担比率 142.3%（早期健全化基準 350%）で将来の借金も高い。

（２）サーモン養殖の現状と課題について

参加目的：

被災跡地の利活用を目的にした沿岸沿いに陸上養殖として、現在 10 万トンと言われる国内市場を持つサーモン養殖を探る情報収集のために参加した。

現状の水研機構の考え方：

最近のサーモン養殖の広がりを背景として、国内における生食市場への安定供給およびアジア圏への輸出を視野に入れた海面養殖さけ・ます類（ニジマス、サクラマス）の国内生産規模の拡大と効率化等に応じた研究課題として、海面養殖に適した系統の作出や海水馴致に関する研究の取り組み例から、将来的には海面養殖向けの種苗生産・普及につながる活動の紹介があった。研究例として、

- ・海水温が高い中で養殖期間を短縮できるようなニジマスの優良系統の作出技術の開発。
- ・これに関連したゲノム解析、ゲノム予測並びに海水馴致技術の高度化等。

全国海面サーモン養殖推進協議会：

平成 30 年 9 月 6 日に協議会発足の紹介。その中で、水産庁栽培養殖課の黒萩課長は、「養殖業にかかる水産政策の改革」と題して平成 31 年度予算の概算要求の内容や昨年 4 月に新たに水産基本計画が策定されたことを受けて検討中の水産政策の改革の概要が紹介され、今後のサーモン養殖の推進をはかる上で理解すべき重要な点について説明があった。

また、(株)オカムラ食品工場の岡村社長からは「青森県におけるサーモン養殖の取り組み」と題して、現状と今後の展開について紹介があり、当日は養殖関連企業や漁業協同組合、飼料メーカー、県の農林水産部の担当者、大学に属する専門家など 66 名が出席したとの紹介があった。

意見交換：

・国産のさけ・ます類の養殖業は、国内の多様なニーズに対応できる等の生産面の優位性がある一方で輸出向けには生産コストを抑えて国際市場の流通にのせることが課題となる。

・業界の声を取り込んで今後の養殖振興に資する活動が軌道に乗れば、これらの課題解決に向けて「全国海面サーモン養殖推進協議会」が果たす役割が大きい等の意見があった。

以上